



[産婦人科・小児科オンライン]

令和3年度

フェムテック等サポートサービス実証事業 成果報告

株式会社Kids Public
2022年2月15日

- 1.事業計画（事業目的と実施事項）
- 2.事業計画に基づき実施したこと
- 3.成果報告
- 4.本事業の課題
- 5.今後の事業展開

働く女性の健康に対する オンライン支援プログラムの効果検証

小児科オンライン

産婦人科オンライン

働く女性への 健康支援プログラム



オンライン相談

- リアルタイムの予約制相談
- いつでも送れるメッセージ相談



産婦人科医と オンラインで定期的にお話

- 産婦人科医と定期的にお話
- 全7回で自分に合った健康情報もらえる

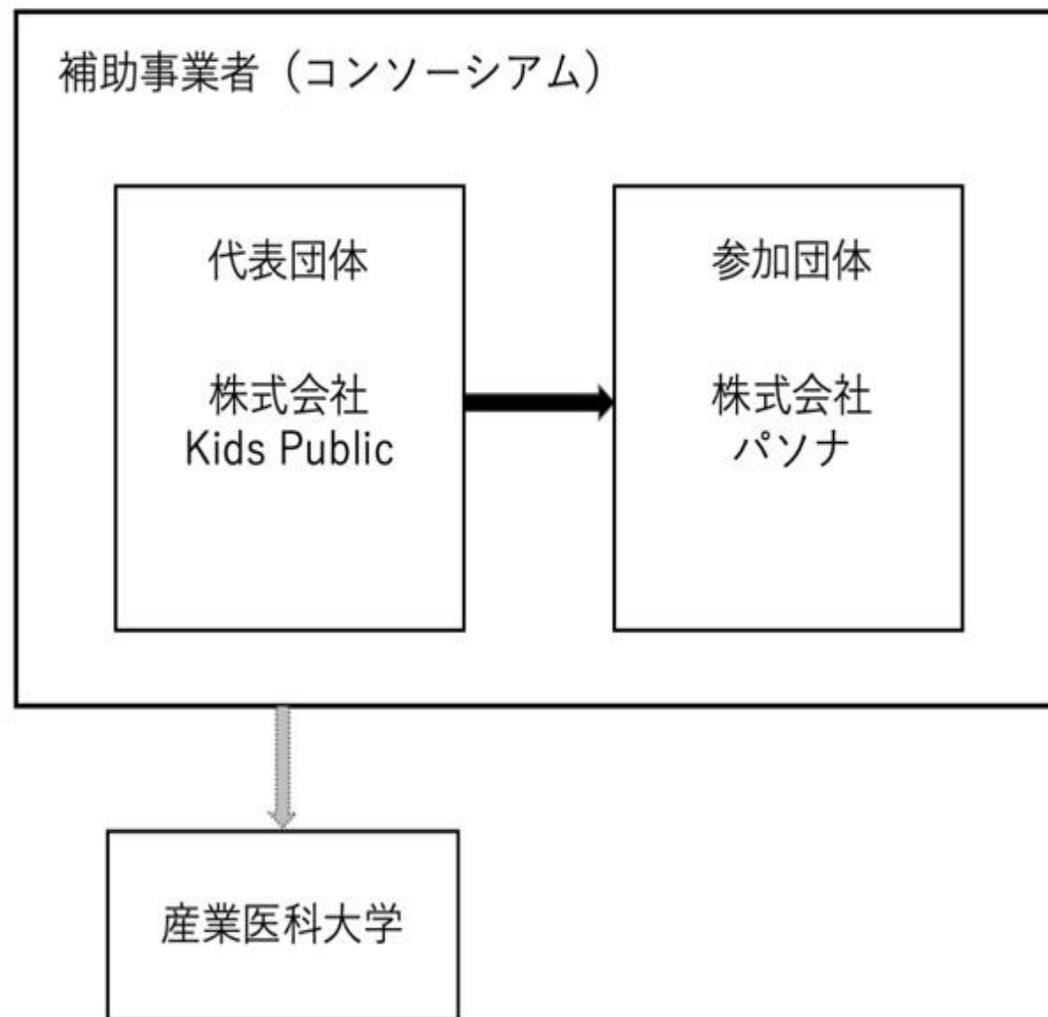


定期的な医療記事配信

- LINEやメールで健康情報を提供
- ヘルスリテラシー向上に貢献

-成果指標-

1. ヘルスリテラシーの変化
2. 生活習慣の改善
3. 適切な産婦人科受診
4. 生産性の変化
5. 就労継続の意向



————→ 協業関係/補助金活用有

- - - - -> 業務委託/補助金活用有

【株式会社Kids Public】

- ・ サービス（支援プログラム）の提供
- ・ オンラインアンケートの実施
- ・ 得られた結果の分析、評価

【株式会社パソナ】

- ・ 対象者のリクルート
- ・ 対照群のリクルート

【産業医科大学（柴田喜幸 教育教授）】

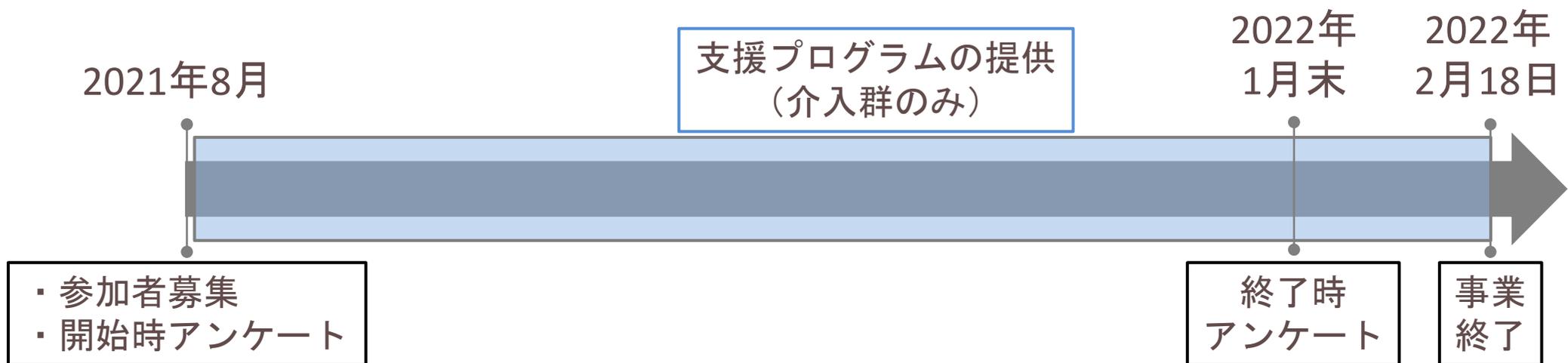
- ・ 医師向け共有資料の監修
- ・ 評価指標の監修
- ・ 得られた結果の分析へのアドバイス

事業計画（事業目的と実施事項）

confidential

【参加者】

- 株式会社パソナ（協力団体）の軽～中労働（営業やデスクワーク等）を主とする女性従業員（妊娠中や産休・育休中の女性は除く）
- 介入群 30名募集 → アンケート＋プログラム提供
- 対照群 30名募集 → アンケートのみ（プログラム提供なし）



オンライン定期面談の実際

近況確認とアドバイス
(10-15分)



*面談イメージ

ミニレクチャー
(10-15分)

テーマ1
月経関連について

株式会社Kids Public

ホルモン関連の治療について

①低用量ピル

ベネフィット

- ・月経周期の調整
- ・月経痛の緩和
- ・子宮内膜症の治療
- ・癌や腫瘍の予防
- ・ニキビや多毛症の改善
- ・PMSの改善

リスク

- ・血栓症
- ・その他の副作用

②子宮内黄体ホルモン徐放システム

医療保険適用にミレーナという製品
ミレーナは黄体ホルモンを持続的に少しずつ放出する器具
重篤な副作用がなく、飲み忘れがない
しばらく妊娠を予定していない人に適している

オンライン定期面談内のミニレクチャー（全6回）

【20-30代】

1. 月経関連について
2. 月経前症候群
3. プレコンセプションケア
4. 婦人科がん
(子宮頸がん、乳がん)
5. 不妊治療
6. 働く女性とメンタルヘルス

【40代～】

1. 月経関連について
2. 月経前症候群
3. 婦人科がん
(子宮頸がん、子宮体がん)
4. 婦人科がん (乳がん)
5. 更年期
6. 働く女性とメンタルヘルス

【開始時アンケート】

- 介入群 回答率100%（30名）
- 対照群 回答率100%（30名）

1. 参加者背景情報（年齢、勤務環境、月経状況など）
2. ヘルスリテラシー
3. 生活習慣
4. 産婦人科への受診
5. 月経等による生産性への影響
6. 社内の支援制度について

【参加者背景】

	介入群（30名）	対照群（30名）
20-30代	50%	50%
子どもあり	53%	40%
在宅勤務あり	53%	67%
月経あり	90%	97%
月経時の辛い症状あり	53%	62%
妊娠希望あり	50%	34%
更年期症状の自覚あり	20%	17%

介入群と対照群の参加者背景に
大きな乖離は認めなかった
(→支援プログラムの差を測定可能)

成果報告（プログラム提供）

confidential

【定期面談】

- ・ 総実施数 165回（各30分間） ←確保枠は193回分
- ・ 平均面談数 5.6回
- ・ 平均レクチャー実施数 4.6回
- ・ 当日キャンセル率 15%

【オンライン相談】

- ・ 夜間相談 1回（更年期について）
- ・ いつでも相談 4回（排卵痛・ピル関連・月経中の胸痛・不正出血）

【定期的な情報配信】

- ・ メール（週1回）＋LINE（週1回） ←産婦人科・小児科それぞれ

【終了時アンケート】

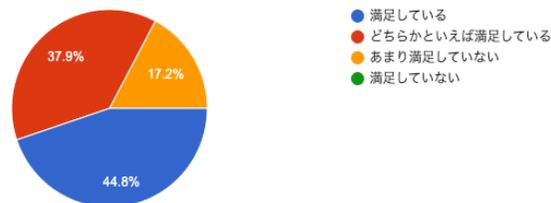
- 介入群 回答率100%（29名：11月に退職のため1名辞退）
- 対照群 回答率100%（30名）

1. ヘルスリテラシー
2. 生活習慣
3. 産婦人科への受診
4. 月経等による生産性への影響
5. 社内の支援制度について
6. 本プログラムへの評価（介入群のみ）

【介入群のみ】

1、今回のオンライン支援プログラム（オンライン相談窓口の利用、定期面談、LINEでの定期的な情報提供）を総合して、どの程度満足しましたか？

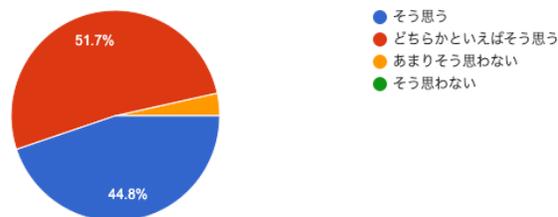
29件の回答



介入群の83%が
プログラムに総合的な満足感あり

3、産婦人科医との定期的なりモート面談によって健康や医療の知識が増えたり、健康的な生活習慣に興味・関心が高まりましたか？

29件の回答

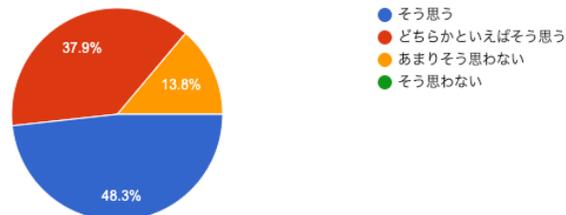


介入群の97%が、定期面談により健康・医療の知識や健康的な生活習慣への関心が高まった

【介入群のみ】

4、定期面談時のレクチャーの内容は、興味や関心がもてるものでしたか。

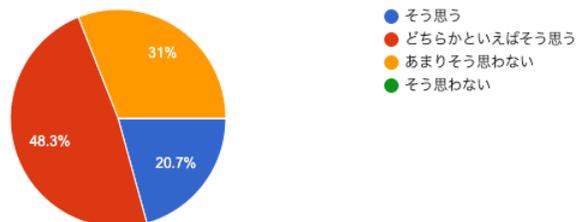
29件の回答



介入群の86%が、レクチャー内容に興味・関心を持っていた

5、LINEからの定期的な医療・健康情報の提供は役に立ちましたか？

29件の回答



介入群の69%が、医療・健康情報の定期配信が役立ったと回答

【介入群のみ】

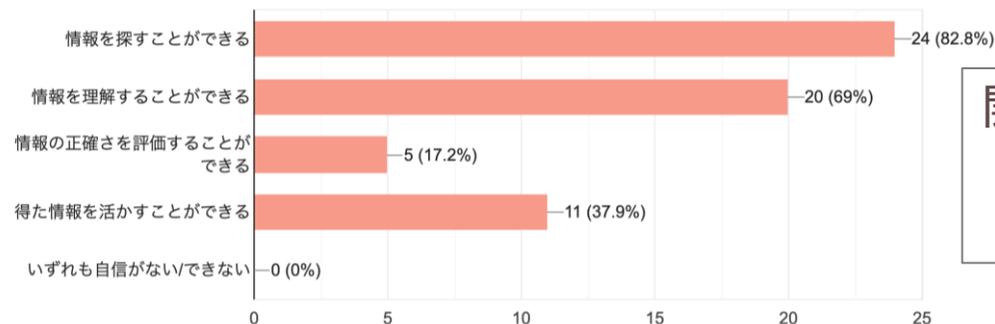
7、実証事業に参加する前と比較して、ご自身の考えや行動、日常生活に変化があれば教えてください。

17件の回答

- 知識が増えたため、日常生活でも関心を持つようになった（5名）
- 日々健康を意識し、自分の身体と向き合うようになった（3名）
- 娘のこと（ワクチンや生理痛など）について伺えた事が非常に良かった（2名）
- プロに質問できたため安心感や納得感が高い（1名）
- 疑問や不安に思っていたことが解消された（1名）
- 得られた情報をさらに調べたり、同僚との会話の話題にしたりした（1名）
- 未婚・妊娠予定なしだったが定期面談でのレクチャーを受けて意識に変化があった。いずれ子どもができたらいいなというぼんやりとしたイメージだったが、計画的に体調を整えたりライフプランを考える必要性を感じた。（1名）
- 特になし（3名）

「女性特有の疾患に関する情報に対して、
ご自分はどのようにアプローチができますか？」

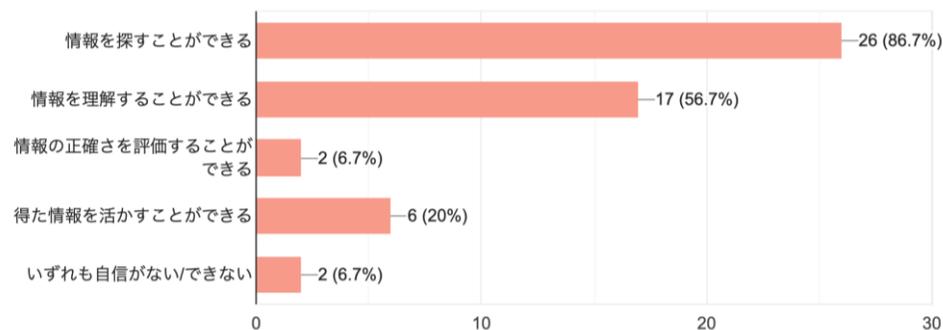
介入群



開始時

- ・ いずれも自信がない
→3%

対照群

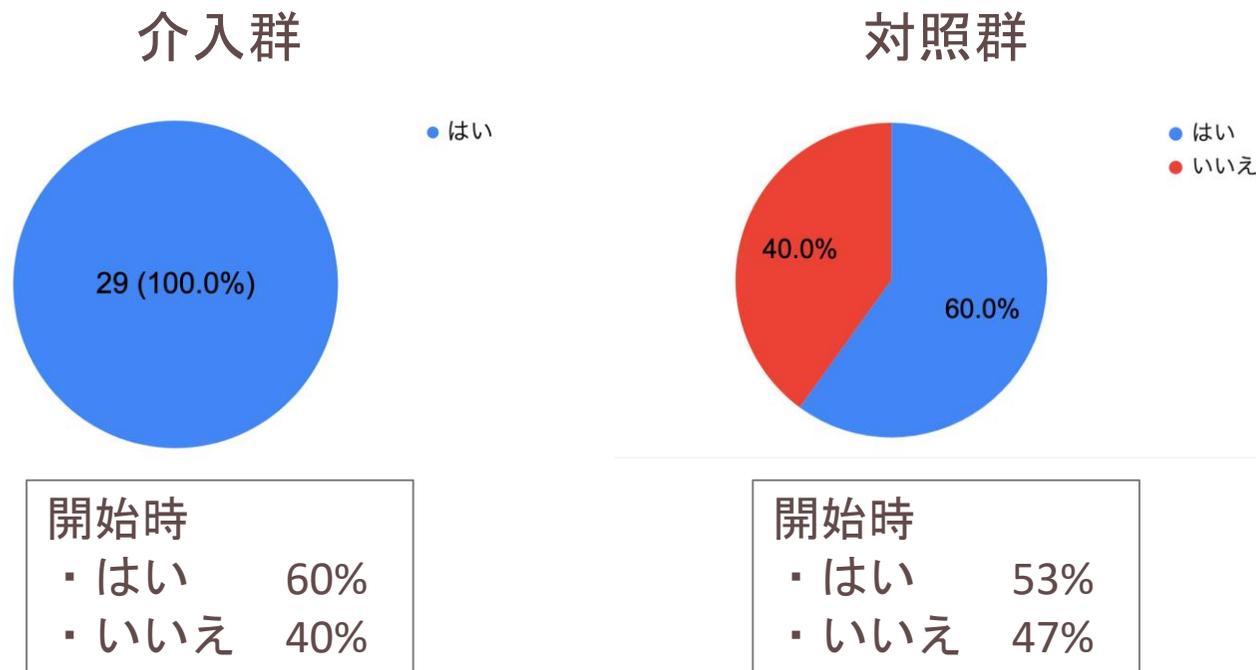


開始時

- ・ いずれも自信がない
→7%

4項目のいずれも自信がない人の割合が
介入群では3%→0%へ減少した
(対照群では7%→7%と不変)

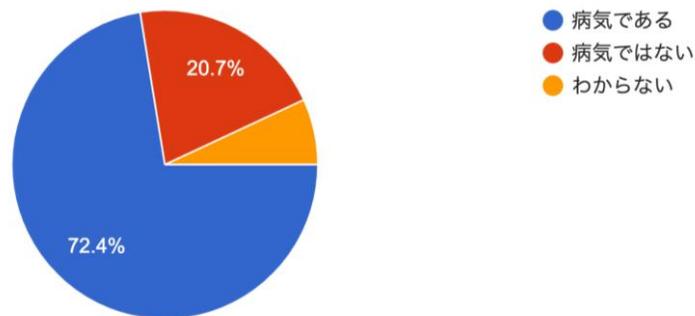
「HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチンは小学校6年生～高校1年生の女の子が接種しておくことが大事だということを知っている。」



HPVワクチンの正しい知識を持つ人の割合が**介入群**では60%から100%へ増加した
(対照群では53%→60%に増加)

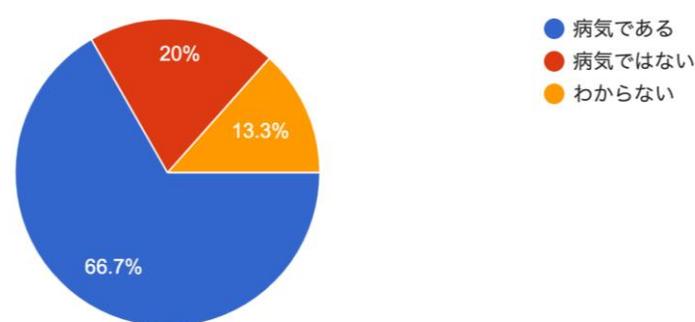
「月経痛で生活や仕事に支障がある場合、これは病気だと思いますか。病気ではないと思いますか？」

介入群



開始時
・病気である
→67%

対照群

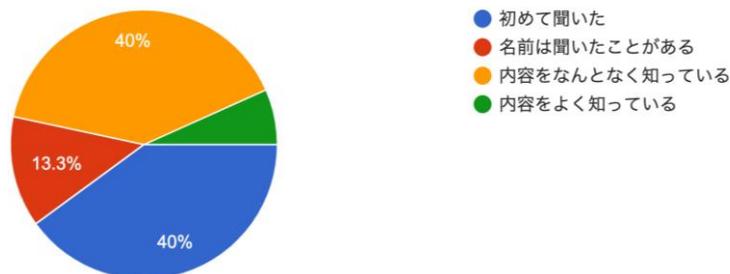


開始時
・病気である
→73%

月経困難症の正しい知識を持つ人の割合が
介入群では67%から72%へ増加した
(対照群では73%→67%へ低下)

「プレコンセプションケアという概念を知っていますか？」

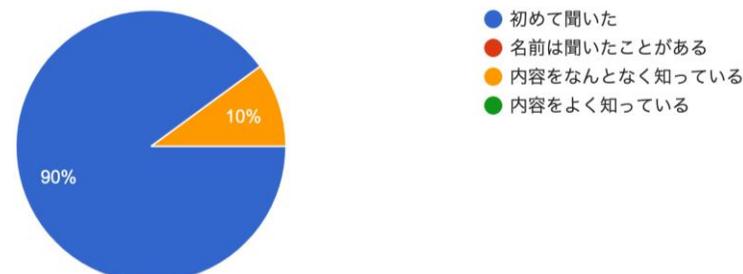
介入群



開始時

- ・内容をなんとなく知っている
 - ・内容をよく知っている
- 合計20%

対照群



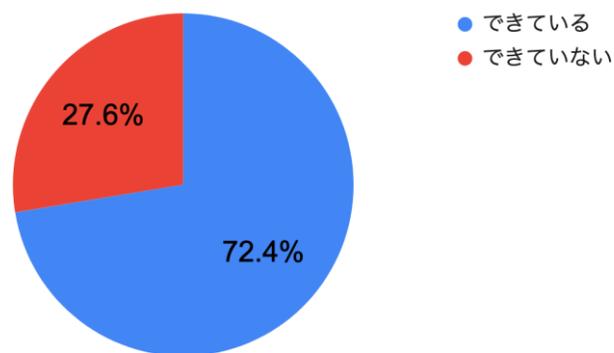
開始時

- ・内容をなんとなく知っている
 - ・内容をよく知っている
- 合計0%

プレコンセプションケアの内容を知っている人の割合が
介入群では20%から47%へ増加した
(対照群では0%→10%へ増加)

「婦人科系の症状や泌尿器系の症状を感じた時は、適切に産婦人科を受診できていると思いますか？」

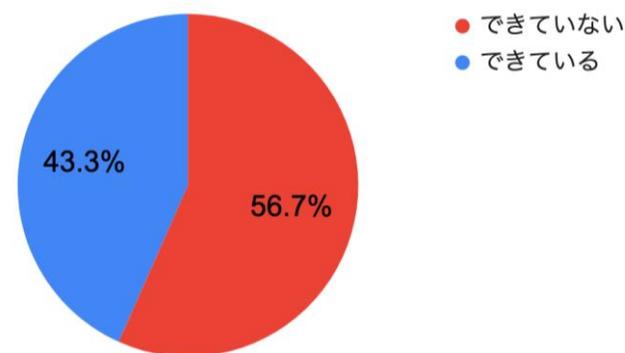
介入群



開始時

- ・ できている 43%
- ・ できていない 57%

対照群



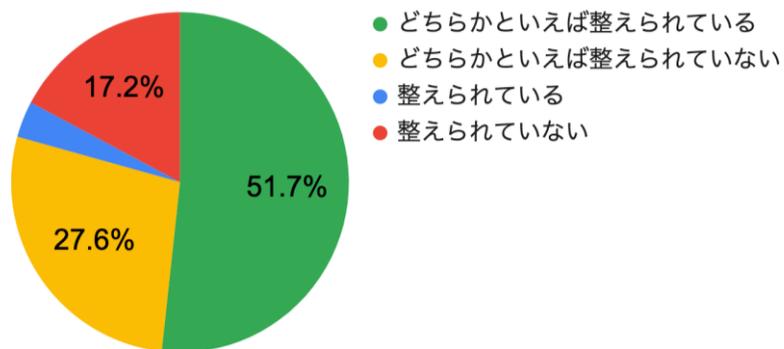
開始時

- ・ できている 47%
- ・ できていない 53%

適切に産婦人科を受診できている人の割合が介入群72%(+29%)、対照群では43%(-4%)だった

「月経や婦人科疾患（お持ちの場合）を意識して、
普段の運動習慣を整えられていますか？」

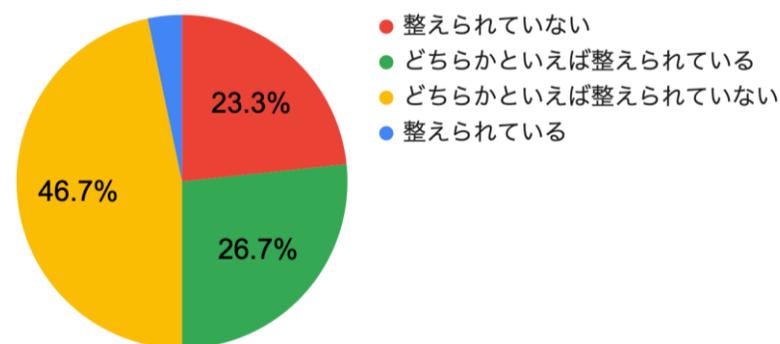
介入群



開始時

・上位2つの合計 28%

対照群



開始時

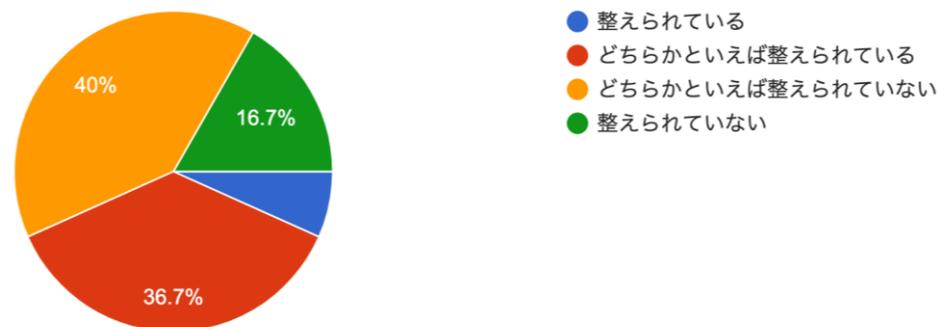
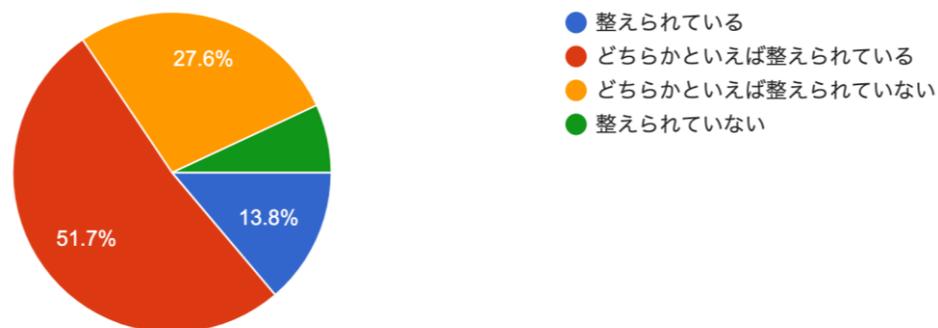
・上位2つの合計 17%

健康状態を意識して運動習慣を整えられている人が
介入群55%(+27%)、対照群30%(+13%)だった

「月経や婦人科疾患（お持ちの場合）を意識して、
普段の食事習慣を整えられていますか？」

介入群

対照群



開始時

・ 上位2つの合計 40%

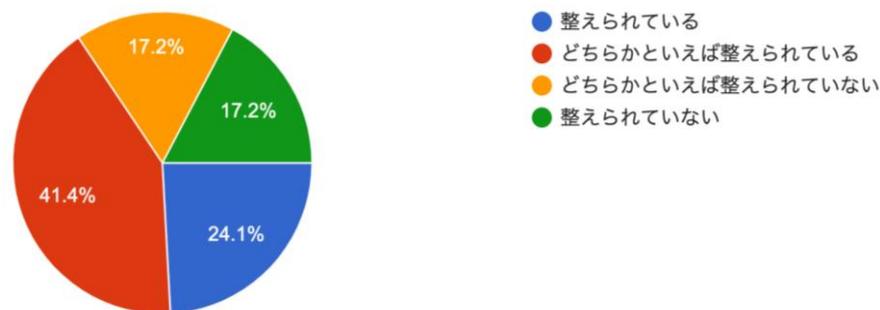
開始時

・ 上位2つの合計 33%

健康状態を意識して食事習慣を整えられている人が
介入群66%(+26%)、対照群43%(+10%)だった

「月経や婦人科疾患（お持ちの場合）を意識して、
普段の睡眠習慣を整えられていますか？」

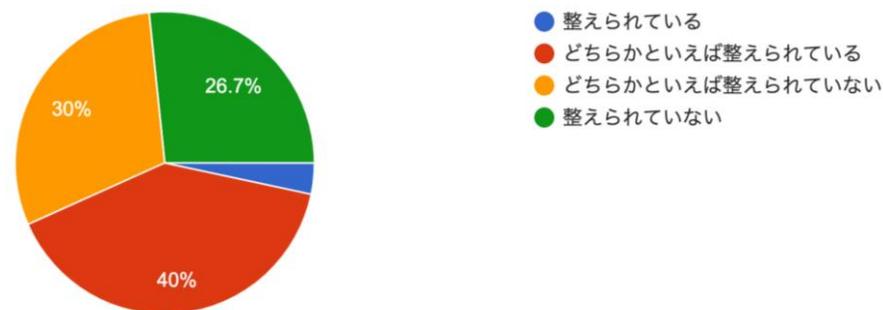
介入群



開始時

・上位2つの合計 47%

対照群



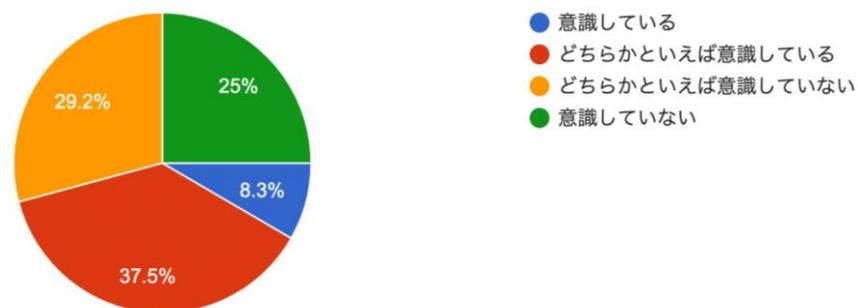
開始時

・上位2つの合計 33%

健康状態を意識して睡眠習慣を整えられている人が
介入群66%(+19%)、対照群43%(+10%)だった

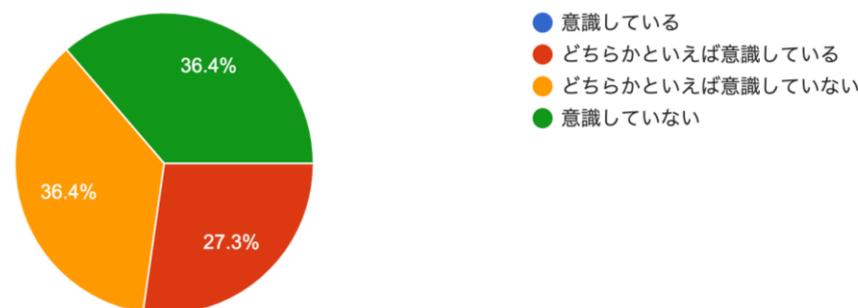
「【閉経前の方のみ】月経周期に合わせて、生活リズムを調整することを意識していますか？」

介入群



開始時
・上位2つの合計 38%

対照群



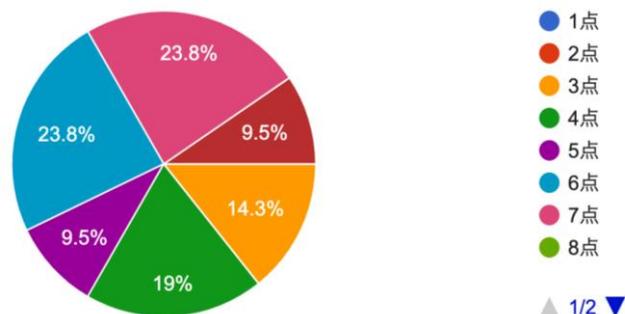
開始時
・上位2つの合計 29%

月経周期を考慮し生活リズムを整えられている人が
介入群46%(+8%)、対照群27%(-2%)だった

「気分が落ち込んだりイライラしやすかったり体調が変化しているときに
あなた自身のパフォーマンスは変化しますか？

元気なときのパフォーマンスを10点として、1～10点で回答してください。」

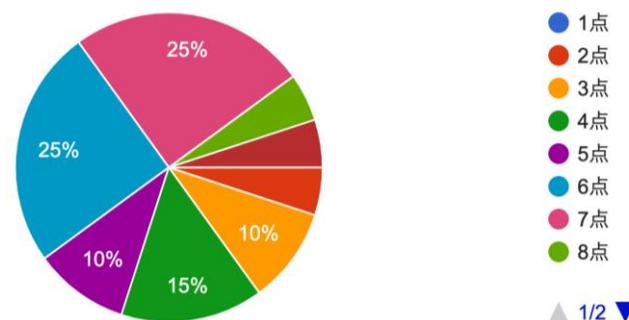
介入群



開始時

・ 6点以上の合計 43%

対照群



開始時

・ 6点以上の合計 42%

体調変化がある際のパフォーマンスを
60%以上維持できる人が
介入群57%(+14%)、対照群60%(+18%)だった

「この1カ月間における、
あなたの健康上の問題や不調について当てはまるもの（複数選択）」

- 介入群

「月経随伴症状による不調」	45%(-15%)
---------------	-----------

「月経前症候群に関する不調」	52%(-8%)
----------------	----------

「更年期症状に関する不調」	14%(-6%)
---------------	----------

- 対照群

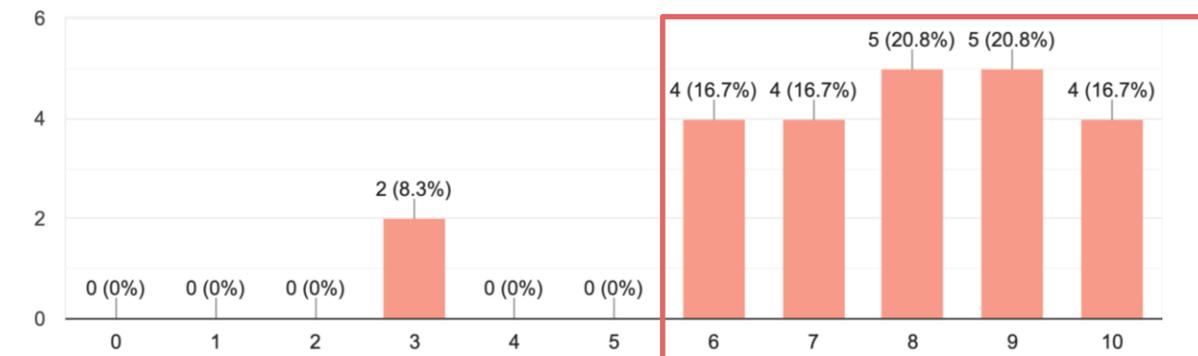
「月経随伴症状による不調」	43%(+3%)
---------------	----------

「月経前症候群に関する不調」	50%(-3%)
----------------	----------

「更年期症状に関する不調」	17%(+4%)
---------------	----------

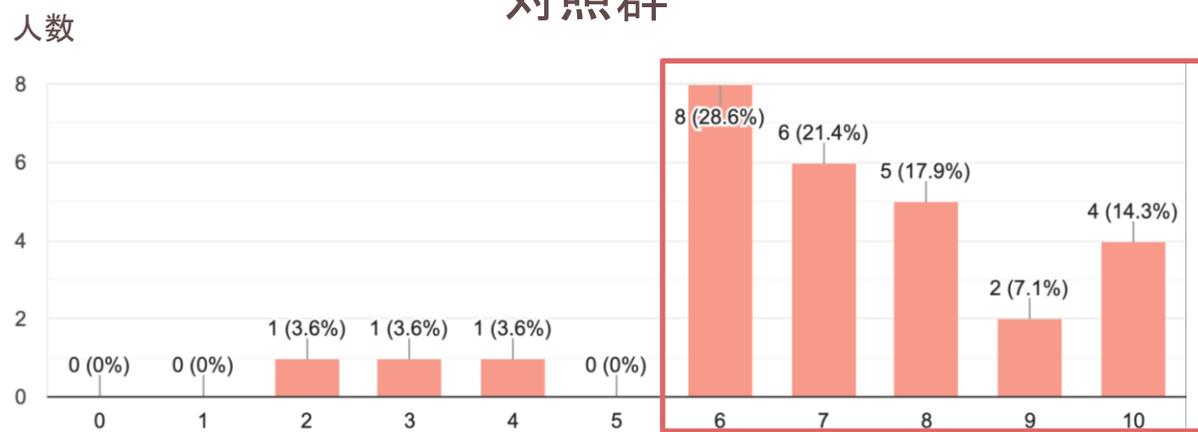
「症状や不安、負担があるときに、こなせている仕事の量」

介入群



普段に比べて時の仕事の量
(0~10点)

対照群

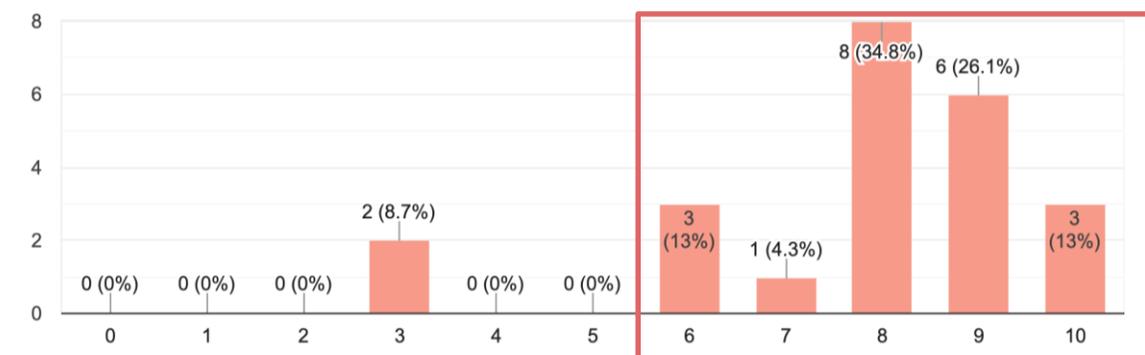


普段に比べて時の仕事の量
(0~10点)

体調変化がある際の仕事の量を普段の60%以上維持できる人が
介入群92%(+6%)、対照群89%(+6%)だった

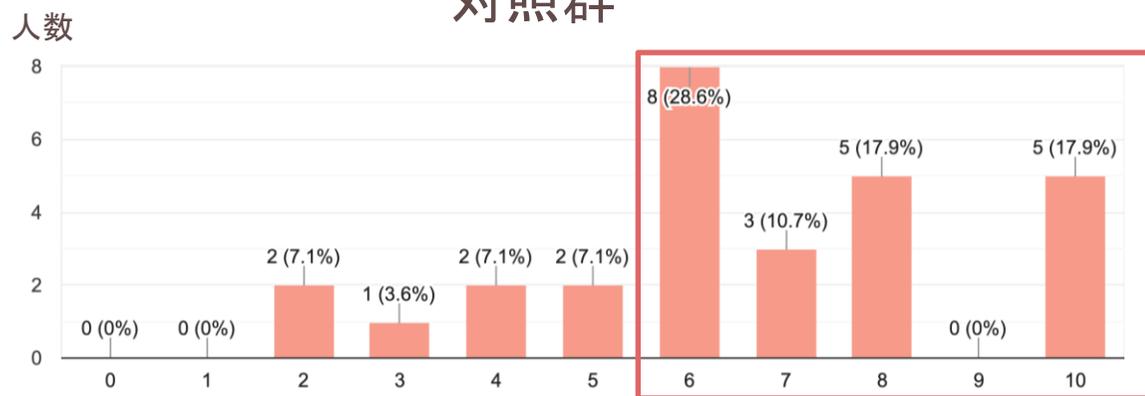
「症状や不安、負担があるときに、こなせている仕事の質」

介入群



普段に比べて時の仕事の質
(0~10点)

対照群

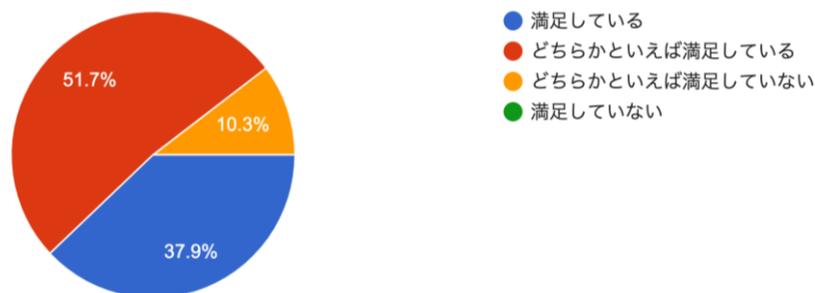


普段に比べて時の仕事の質
(0~10点)

体調変化がある際の仕事の質を普段の60%以上維持できる人が
介入群93%(+4%)、対照群75%(±0%)だった

「パソナでは様々な健康に関する取り組みを実施しています。
会社からの健康に関するサポートに満足していますか？」

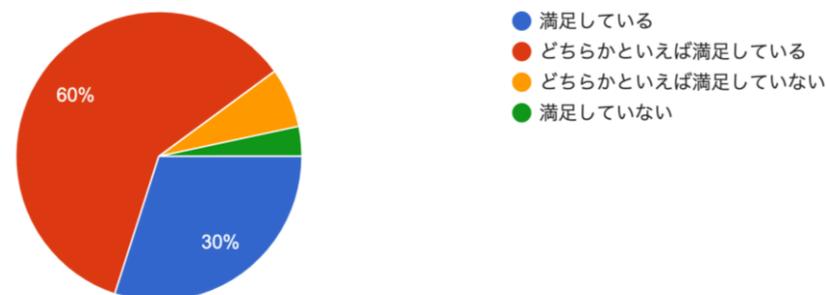
介入群



開始時

・ 上位2つの合計 73%

対照群



開始時

・ 上位2つの合計 73%

社内の健康関連の取り組みに満足している人が
介入群90%(+17%)、対照群90%(+17%)だった

1. 事業期間内の6ヶ月間に、支援プログラムを概ね想定通りに提供することができた
2. 参加者の介入群と対照群の背景に大きな差はなかった（比較可能性が担保できた）
3. 開始時と終了時のアンケートは100%の回収ができた
4. 支援プログラムの総合満足度は83%と高いものだった
5. 介入群では「ヘルスリテラシー」「生活習慣」「生産性」「受診行動」で良好な変化が認められ、支援プログラムが有効だったと考えられた

【プログラム提供】

- 相談や面談のスムーズな管理と実施のためのシステム開発の必要性
- 日中に定期面談を希望する人への対応
- 面談の頻度や回数のカスタマイズ
- 個々の状況や希望に合わせたレクチャーのカスタマイズ

【本事業で得られた結果の解釈】

- 妊娠中や育休中の女性は含まれていない
- 都市部のデスクワークを中心とする女性が対象
- 介入群と対照群の参加者背景が完全に揃っていない

【プログラム内容の拡充】

- 相談や面談のスムーズな管理と実施のためのシステム開発の検討
- 日中のサービス提供や面談の頻度や回数に関する検討
- レクチャー資料の工夫や拡充

【他業種等への事業展開】

- 妊娠中や育休中の女性への提供（小児科オンライン含む）
- 非都市部の事業者への提供
- 非デスクワークを主とする女性への提供

あらゆる地域、規模、種類の
事業者へのオンライン支援
プログラム提供を目指す